

## 大学の取り組みの現状と課題

### 0. はじめに

コロナ危機は、これまでの大学のあり方には数多くの問題があることを明らかにした。問題の本質を検討し、「ウィズ コロナ」「ニューノーマル」とは異なる大学の方向と改革の課題を提起したい。

### 1. 現状

#### (1) 感染者数等

世界の感染者（累計）2億1895万人、死者454万人（9/3、COVID-19 Dashboard）

国内の感染者（累計）156万1606人、死者1万6329人（9/4、NHK）

大学の感染者（累計）2万8614人（9/4、Jin's lab.）、死者数不明

北海道の感染者（累計）5万7947人、1456人（9/4、NHK）

大学の感染者（累計）1277人（9/4、Jin's lab.）、死者数不明

北海道大学（累計）96人（職員12人、学生84人）（8/18まで）

#### (2) 緊急事態宣言・まん延防止等重点措置区域等（2021年4月以降）

4/15 北海道知事、措置法に基づく要請（札幌市内において不要不急の外出を控える、札幌市との不要不急の往来を控える）。感染再拡大防止に向けて札幌市長と連名メッセージ

5/7-5/15 まん延防止等重点措置区域

5/16-6/20 緊急事態宣言対象地域

6/20-7/11 まん延防止等重点措置区域

8/2-8/26 まん延防止等重点措置区域

8/27-9/12 緊急事態宣言対象地域

#### (3) ワクチン接種

開始予定日	大学名	対象者	近隣地域への接種対象拡大（予定）
6月21日	北海道医療大学	学生・教職員 近隣学校 留学予定者	近隣住民への接種について検討中 留学予定者を受け入れ
6月25日	東京農業大学	学生・教職員 近隣企業等	網走市内の一部企業等から受け入れ予定
6月28日	北海道情報大学	学生・教職員 近隣住民等	近隣の幼稚園・小中学校の教職員（2000人）、近隣の専門学校の学生・教職員（1000人）へ接種拡大予定

6月29日	名寄市立大学	学生・教職員 近隣住民等	名寄市と連携し、近隣住民を受け入れ予定
7月5日	天使大学	学生・教職員 近隣学校	近隣の中高等学校の教職員（120名）へ接種予定
7月5日	北海道科学大学	学生・教職員 近隣住民等	近隣地域等への接種拡大について検討中
7月5日	日本赤十字北海道看護大学	学生・教職員 近隣学校	北見市教育委員会と連携し近隣の小中学校の教諭等（1600名）に接種予定
7月8日	北海道文教大学	学生・教職員	近隣地域等への接種拡大について検討中
7月10日	札幌保健医療大学	学生・教職員 他大学 近隣学校	市内の私立学校（小・中・高）の教職員、私立学校（短大・専門学校）の学生教職員、市内の認定子ども園・幼稚園・保育園の教職員、近隣の高専の学生教職員を受け入れ
7月17日	北海道大学	学生・教職員 近隣学校 留学予定者	一般接種への協力のほか、小樽商科大学の学生・教職員を受け入れ 留学予定者を受け入れ
7月19日	北海道大学千歳リハビリテーション大学	学生・教職員 近隣学校 近隣企業	日本航空大学校北海道千歳空港キャンパスの教職員及び学生及び近隣の公共交通企業を受け入れ
8月10日	札幌保健医療大学	学生・教職員 近隣学校 近隣企業 近隣住民	近隣の専修学校の学生・教職員、近隣学校の教職員、近隣住民・近隣会社等へ接種予定
8月26日	札幌医科大学	学生・教職員	大学に関連する近隣企業等へ接種予定

文部科学省資料より光本作成。「近隣地域への接種対象者拡大（予定）」は発表時点のもの。

帯広畜産大学は医師と看護師を確保し、7月31日に接種開始の申請をしたが、未承認の状態が続く（『道内大学 広がる接種』『北海道新聞』2021年7月17日付朝刊）

## 2. 課題

### (1) コロナ危機における大学の課題

#### ①感染症対策は十分なされているか

- 大学における感染症対策

社会全体と比べて、大学における感染症数は多いとはいえない。ただし、大学が感染の状況を正確に把握しているとは言いがたい。感染者の動向の把握・共有、対策の検討が課題ではないか。

- 大学を含めた社会における感染症対策への貢献

大学拠点接種への参加は貢献の一つといえる。しかしながら、他の面での貢献は十分とはいえないのではないかと。地域の公衆衛生との連携、関連する研究・教育の推進が課題だろう。

- 教職員の労働条件

以上のほか、教職員の労働条件を適正な水準に保つことも課題である。特に、感染症対策で過重な負担が生じていないか、教職員の感染症対策は適切か点検し、問題があれば大学設置者に改善させること、大学横断的な課題を明らかにし、政府・地方自治体に公的支援を行わせることなどを追求すべきだろう。

②「コロナ後」の大学像をどのように描くか

● 学生の経済問題・教育費負担

2021年度は2020年度に比べて、大学が行う経済的支援が後退したように思われる（学生に対して給付を行っている大学は少ない）。実態の把握、政府・地方自治体による支援要請などを行うことが必要。

2021年度の注目すべき事例：札幌大学（「学校法人札幌大学 新型コロナウイルス感染症緊急総合対策」、家計急変支援、アルバイト収入急減等支援、宅配BOXの設置等）、北海学園大学（「北海学園第2種緊急奨学生」学部学生（昼間部）・大学院生（社会人特例学生を除く）に年額10万円、学部学生（夜間部）・大学院学生のうち社会人特例学生に年額5万円を給付）のものがある。

● 教育内容・方法

大学におけるオンライン授業のインフラが整い、内容・方法の改善等はすすんできたと思われる。

一報、経費削減の観点からオンライン授業への依存を強める方向も見られる。オンライン教育は通学することが困難な場合を中心とすべきであり、オンライン教育を安易に拡大すべきではないのではないか。

授業（講義・演習・実習等）、行事・課外活動等、トータルでどのような大学教育を保障していくべきかを考え、必要な条件整備の内容を検討、基準化する必要がある。